

【守口市下水道事業経営戦略 概要版】

第1章 経営戦略策定の趣旨等（本編P1）

改定の趣旨等

下水道施設の老朽化に伴う更新費用の増加に対し、市民の節水意識の向上等による下水道使用料の減少が懸念される等、より一層の厳しさが増すことが予想されることから、健全な事業運営に取り組むために令和3年3月に「守口市下水道事業経営戦略」を策定しました。

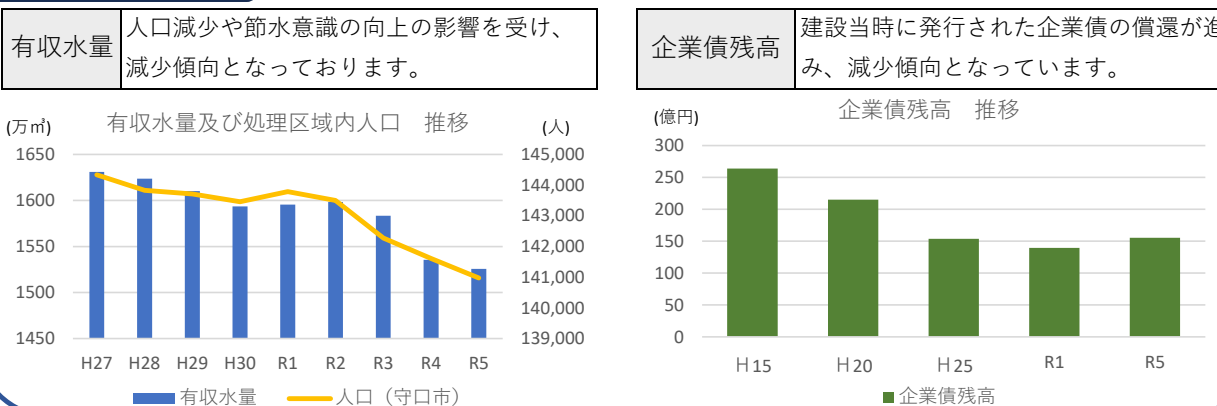
策定後は、経営環境の変化や社会情勢に応じて3～5年ごとでの見直しが必要であり、今般、将来にわたる安定的な事業継続のために、この経営戦略の見直しを行いました。（計画期間：令和7年度から令和16年度）

第2章 下水道事業の現状（本編P2～P27）

下水道整備状況

老朽化対策（管渠）	標準耐用年数である50年を経過した管渠について、状況の把握及び更新の必要性を検討の上、緊急度が高いものから順次更新工事を行っています。
老朽化対策（処理場・ポンプ場）	電気設備においては、標準耐用年数に従って更新を行い、機械設備においては、点検業務による設備状況の把握の上、必要な時期に更新を行っています。
地震対策	重要な幹線の耐震化を行うとともに指定避難所に水源設備も備えたマンホールトイレを設置しています。
浸水対策	近年、局地的で短時間の強い雨である集中豪雨が発生しているため、大阪府とも協力しながら、様々な施設の整備を進めています。

経営の状況



他団体比較

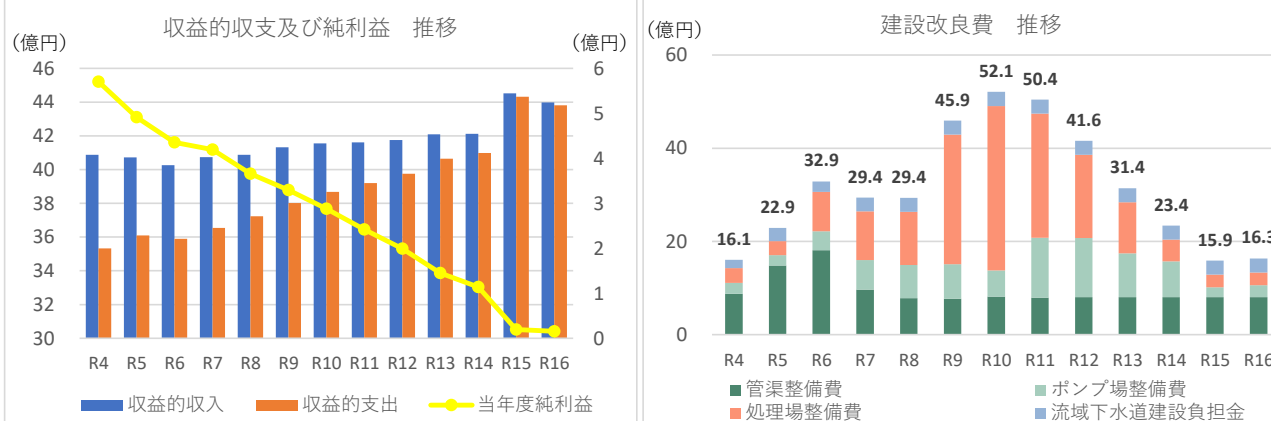
視点	類似選定団体経営指標平均数値と本市との比較表（令和4年度決算数値） （選定団体の平均値を50とした場合の本市の状況）			総評
	経営指標	偏差値	比較結果	
経営の健全性 効率性	① 経常収支比率	58.95	良い	短期的な経営状況及び事業規模は、①～⑦より本市の場合は概ね良好といえます。
	② 累積欠損金比率	50.00	良い	
	③ 流動比率	70.24	良い	
	④ 企業債残高対事業規模比率	41.77	良い	
	⑤ 経費回収率	62.25	良い	
	⑥ 汚水処理原価	41.79	良い	
	⑦ 水洗化率	58.71	良い	
老朽化の状況	⑧ 有形固定資産減価償却率	56.46	悪い	長期的には、老朽化した資産の更新費用の増加が見込まれます。
	⑨ 管渠老朽化率	55.56	悪い	
	⑩ 管渠改善率	72.50	良い	

第3章 下水道事業の課題（本編P28～P30）

下水道事業の課題

下水道使用料の減少	人口減少等により、今後も下水道使用水量が減少していくと見込まれます。これに伴い、下水道使用料も減少していくと見込まれます。
管渠の更新	標準耐用年数経過した管渠でも健全な状態のものも多数あるため、点検を実施するとともに、必要な更新工事を行っています。
ポンプ場の更新	現在、着手している寺方ポンプ場に加えて、八雲ポンプ場等の更新が控えており、多額の支出が見込まれることから、効率的かつ経済的に事業を進めるため、PPP/PFIの活用を検討していきます。

第4章 投資・財政計画（本編P31～P37）



第5章 効率化・健全化への取り組み（本編P38～P39）

投資計画

建設の効率化	国において、民間企業のノウハウや創意工夫を活用した官民連携であるPPP/PFIの活用が推進されていることから、大規模な更新工事について、発注方式等の検討を行います。
投資の平準化	資産の状態管理について、時間計画保全、状態監視保全を使い分けながらストックマネジメント計画を更新するとともに、投資の平準化を行います。
ウォーターPPPの導入	国において、官民連携方式（管理・更新一体マネジメント方式）を公共施設等運営事業と併せて「ウォーターPPP」として導入拡大を図ることとされました。本市においても導入に向け検討を行います。

第6章 経費回収率の向上に向けたロードマップ（本編P40）

第7章 経営戦略の事後検証、改定等（本編P41）

経費回収率向上に向けたロードマップ

	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16
経営戦略期間											
経営戦略改定											
経費回収率											
経常収支比率											
委託の活用											
使用料改定の必要性の検討											
使用料の改定 ※必要時のみ											

※今後、5年ごとに「使用料改定の検討」を行うことにより、経営の適正化に努めます。